朝鮮語の格

菅野裕臣
元神田外語大学

1. 朝鮮語の**格**は形の上でも意味の上でも極めて複雑な体系を持っている．以下に次の略号を用いる．母：母音語幹，ㄹ：ㄹ語幹，子：子音語幹；書：書き言葉，話：話し言葉；無：無情名詞，有：有情名詞．

(a) よく知られるように明らかに**異形態**を持つ格が存在する．母-를/子-을＜... を＞，母ㄹ-로/子-으로＜... で（具格）＞，母-가/子-이＜... が＞，母-와/子-과＜... と＞，母-야/子-아＜... よ＞，母-여/子-이여＜... よ＞．

これらのうち母-가/子-이＜... が＞は左項と右項が歴史的にはまったく異なる形態素だが，現代語では完全に相補的だから，同一形態素と認められるものである．

(b) ある種のものは**書き言葉形**と**話し言葉形**とが対応をなすものがある．書-에게/話-한테＜... に（与格）＞，書-와/-과/話-하고＜... と＞．しかし話し言葉にのみ用いられる右項は北朝鮮の文法書では도움토（補助助詞）としてしか扱われてこなかった．(A)

あるものは話し言葉でもさらに形の「崩れる」ものがある．母-를/話母-ㄹ＜... を＞，母-로/話母-루，子-으로/話子-으루＜.. で（具格）＞，-에서/話-서(...で(処格),...から)，-부터/話-부텀＜...から＞，-보다/話-보담＜... より（比較）＞，-까지/話-까정/話-꺼정＜... まで＞．(B)

話し言葉にしか現われないものがある．-더러＜... に（与格）＞，-께＜... に（与格）＞，-께서＜... が＞，話-하고/話-하구/話-허구＜... と＞．(C)

(A)，(B)，(C)は次のような関係にある．

書き言葉	(A)左項	(B)左項	
話し言葉	(A)右項	(B)左項,右項	(C)全項

(A)は左項と右項が，完全ではないが，ほぼ相補的関係にある．

(c) ある種のものは**無情名詞**に接尾するものと**有情名詞**に接尾するものとで形の異なるものがある．無-에/有書-에게，有話-한테＜... に（与格）＞，無-에서/有書-에게서，有話-한테서＜... から＞．いわゆる与格に関して次のように整理できる．

（与格）	書き言葉	無-에	有-에게	
	話し言葉	無-에	有-한테	有-더러　有-께
（奪格）	書き言葉	無-에서	有-에게서	
	話し言葉	無-에서	有-한테서	

与格の有情名詞に接尾する形は次のような対立を表すものと考えられる.

（非言語活動動詞＋）有-한테 /（言語活動動詞＋）有-더러

（非尊敬名詞＋）有-한테，有-더러 /（尊敬名詞＋）有–께

これらを総合するに次の表が得られるだろう.

表 1　与　格

書き言葉（有情名詞＋）	話し言葉（有情名詞＋）		
	非　尊　敬		尊　敬
	＋非言語活動動詞	＋言語活動動詞	
–에게	-한테	-더러	–께

また主格は次のように整理できる.

表 2　主　格

書き言葉	話し言葉	
	非　尊　敬	尊　敬（有情名詞＋）
母-가/子-이		–께서

しかし主格に近いものとして次の 2 種類がある. (1) -란/-이란<... と>, (2) -야말로/-이야말로（... こそ（が)). これをどう位置づけるかが問題である.

(d)「格」は形の上からは次のような構成を持つ.

(i) 1 音節からなるもの：-의<... の>，–에<... に,... へ>，-가/-이<... が>，-를/-을<... を>,母-와/子-과<... と>,母ㄹ-로/話母ㄹ–루<... で（具格）>，–께<... に（与格）>. このうち–께<... に（与格）>は歴史的には 2 つ乃至 3 つの形態素からなる.

(ii) 2 音節からなるもの：子-으로/話子–으루<... で（具格）>. これは明らかに接合母音＋-로/話-루からなるものだから, -로/話-루とともにそれぞれ同一形態素をなすことは明らかである.

(iii) 2 音節からなるもの:-에게(... に(与格)), -에서<... で(処格),... から>, 話–께서<... が>. 母ㄹ–로서/子–으로서<... として>，書母–로써/書子–으로써（... でもって). 歴史的には 2 形態素からなるが，**現代語では 1 形態素**と見てさしつかえないものである. しかし時にこれらが今でも 2 形態素からなると主張する者がいる.

書母ㄹ–로서/書子–으로서<... として>，書母ㄹ–로써/書子–으로써（... でもって）は**任意的に**母ㄹ–로/子–으로と**置き換え可能**のものである. すなわち書母ㄹ–로서/書子–으로서<... として>，書母ㄹ–로써/書子–으로써（... でもって）は母–로/子–으로の一部の意味とダブり，かつ置き換え得るというものである. これは図示すれ

ば次のようになる.

表 3　具　格

具	格	
	資　格	手　段
	母ㄹ-로/子-으로	
	書母ㄹ-로서/書子-으로서	書母ㄹ-로써/書子-으로써

実は無書-에/有書-에게/有話-한테<. . . に（与格）>，無書-에서/有書-에게서/有話-한테서<... から>も書-에，書-에서の一部とのみ置き換え可能である.

表　4　与格，奪格

無情名詞＋（与格，奪格）		
	有情名詞＋	
書き言葉		話し言葉
無書-에		
	有書-에게	有話-한테
無書-에서		
	有書-에게서	有話-한테서

(iv) **2** 音節からなるもの：-부터/話-부텀<... から>，-보다/話-보담<... より（比較）>，-까지/話-까정/話-꺼정<... まで>，話-한테<... に（与格）>，話-하고/話-하구/話-허구<... と>，-처럼<... のように>．これらは歴史的には **2** 形態素からなると思われるが，**現代語では 1 形態素**と見なされるものである.

(v) **3—4** 音節からなるもの：有書-에게서<... から>，有話-한테서<. . . から>，無-에다가/無-에다（＋添加動詞）<. . . に（与格）>，有書-에게다/有書-에게다（＋添加動詞）<. . . に（与格），有話-한테다가/有話-한테다（＋添加動詞）<. . . に（与格），母-로다가/母-로다//子-으로다가/子-으로다//話母-루다가/話母-루다//話子-으루다가/話子-으루다（＋材料動詞）<. . . で（具格）>．これらを-에，-에게，母-로/子-으로//話母-루/話子-으루及び-서，-다가/-다とを異なる形態素の結合と認定する者がいる．有書-에게서<... から>，有話-한테서<... から>については表 4 参照．また残りのものについては表 5 を参照.

表 5　与格，具格

与　格＋非添加動詞		具　格＋非材料動詞	
	＋添加動詞		＋材料動詞

無-에/有話-한테		母ㄹ-로다가/母ㄹ-로다

	無-에다가/無-에다
	有話-한테다가/有話-한테다
		/子-으로다가/子-으로다
		//話母ㄹ-루다가/話母ㄹ-루다
		//話子-으루다가/話子-으루다

つまり-다가/-다を含むものはそれを含まないものと**任意的に置き換え可能**なものである.

(vi) 4－5音節からなるもの：奪格はいろいろな派生形を持つが，これらはそれぞれが他の形と**任意的に置き換え可能**である．-에서/-에서부터/書-로부터/書-로서부터, 話-서/話-서부터/書-로부터/書-로서부터, 書-에게서/書-에게서부터/書-로부터/書-로서부터, 話-한테서/話-한테서부터/書-로부터/書-로서부터, -부터/書-로부터/書-로서부터．表6参照.

表 6 奪　格

場所	書-로부터/書-로서부터	-에서			
			-에서부터	話-서/話-서부터	
有情物		書-에게	서	話-한테	서
			書-에게서부터		話-한테서부터
時間		-부터			

(vii) 呼格と共格はもう1つの形とあわせて表7，表8のような体系を持つと思われる．また与格の一部には表9のようなもpの0も含まれる.

表 7　呼　格

書き言葉	話し言葉	
	非　尊　敬	尊　敬
母-여/子-이요	母-아/子-야	-이시여

表 8　共　格

書き言葉	話し言葉	
	非甘え	甘え
母-와/子-과	-하고/-하구/-허구	母-랑/子-이랑

表 9　与　格（方向）

与　格		
	方向Ⅰ	方向Ⅱ
-에		

	無-에를/無話-엘/有書-에게를 //有話-한테를/有話-한텔	無-에로/有書-에게로 /有話-한테로

2. 上記で現代朝鮮語の基本的な格の形はほぼ出たと思われるが，すでに上記だけでも格の形態素の数の認定について個人差があり得る．

そのうち極端なのは意味に関係なくできるだけ形態素に細かく分割する方法である．これで行くと上記のものだけで1つの形態素からなるもの，2つの形態素からなるもの，最大限3つの形態素の結合があり得ることになる．この方法はかつて構造主義華やかなりし頃の韓国でよく行われたが，これは不可である．なぜならば例えば-로서부터を-로-서-부터にように3つの形態素に割ったところで，この結合が時には単純な-부터との交替が可能なように，全体で出発「... から」の意味しか持たないからである．この場合-로서부터全体の意味は-로-서-부터に分解して得られた3つの要素の意味をプラスして得られるものではない．すなわち1つの形態素との交替可能性をもってして，多くの格の形，すなわち複数の形態素の結合からなるものを，1つの格の形と認定するべきなのである．

韓国にはかつての悪しき分解主義の弊害が随所に残っている．-에서，書-에게서，話-한테서，母-로서/子-으로서；母-로써/子-으로써；-에다가/ -에다，-에게다/ -에게다，-한테다가/-한테다，母ㄹ-로다가/母ㄹ-로다//子-으로다가/子-으로다//話母ㄹ-루다가/話母ㄹ-루다//話子-으루다가/話子-으루다で要素-서，-써，-다가/-다を取り出し，それらを-에，-에게，-한테，母ㄹ-로/子-으로//話母ㄹ-루/話子-으루に接尾させる，すなわち各々2つの形態素に分割するのである．歴史的には確かに複数の形態素からなったであろうこれらの形をいくら要素に割ってみたところで，あらゆる努力にもかかわらず，要素-서，-써，-다가/-다の意味を確定することなど不可能である．甚だしくは用言語尾Ⅰ-고서，Ⅲ-서，Ⅰ-다가，Ⅲ-다가との同一性を確定しようと無駄な努力を重ねる者まで現われる（Ⅰ，Ⅲは「語基」を示す）．

例えば母ㄹ-로서부터/子-으로서부터はそれぞれ3つの形態素からなると言うとしても，それら全体で1つの格を表している，すなわち1つの形態素相当のものであることを示すために，母ㄹ-로서부터/子-으로서부터を文法素と呼ぼうと思う．母ㄹ-로서부터/子-으로서부터の総体が1つの文法素であり，母ㄹ-로서부터も子-으로서부터もいわば異形態相当のもの，すなわち文法素のヴァリアントであるが，それに特別な命名は必要あるまい．朝鮮語の格は数多くのヴァリアントからなる文法素の集合体である．

3. 上記の方法で現代朝鮮語の基本的な「格」を取り出したとしても，なお

かつ次の問題が残る.

(1) 明らかに複数の形態素からなる格の形を置き換え可能性によりいくつかの文法素に整理したとしても，その方法だけでヴァリアントの同一性を確定し得たと言えるのか？　例えば母ㄹ-로서부터/子-으로서부터と-에서との意味の同一性を認めたとしても，およそ形が異なれば内容も異なるのは言語学の教えるところの基礎であってみれば，何をもってヴァリアントと呼び得るのか？

(2) 「格」助詞と他の助詞，すなわち並立助詞，及び副助詞との違いは何か？　また格助詞と並立助詞や副助詞とまたがり得るもの，すなわち同音異義語の境界はなにか？

(3) 格助詞どうしの結合，格助詞と並立助詞や副助詞との結合にはどのようなタイプがあるか？　格助詞が接尾し得る単位として名詞のほかに何があるか？

(4) 現代朝鮮語の格助詞はどのように分類しえるか？　格助詞のパラディグマをどのように作るか？

4. (a) 上記 1.(a) で述べたように**同一の位置で音的条件において完全に相補的な 2 つの形態素**が同一形態素の異形態と認められるのは当然である. これにより具格母ㄹ-로/子-으로，共格母-와/子-과，呼格母-야/子-아，母-여/子-이여のほかに主格母-가/子-이も一応確定され得る．ここで格の名称は暫定的なものである．主格母-가/子-이については，形態素という概念が通時的なものであるとして，これを認めない者もいるが，通常はこれは共時的に異形態と化した典型的な例として挙げられる．1.(a),(d)(i),(ii)参照.

(b) 歴史的に複数の形態素からなったと思われるものも**現代語の観点からさらに形態素に分割し得ないもの**は 1 つの形態素と見なすべきである. このようにして-에서，-에게，-부터，-보다，-까지，-더러，-께，-한테，-께서，-하고，-에게서，-한테서が第一次的に不分割の形態素として取りだされ得る．1.(d)(iii)参照.

(c) 現代語において書き言葉と話し言葉という**文体的違いによる異なる形**は異形態と見てよい．このようにして対格母-를/話母-ㄹ，具格母-로/話母-루//子-으로/話子-으루, 処格/奪格-에서/話-서, 奪格-부터/話-부텀, 比較格-보다/話-보담, 到達格-까지/話-까정/話-꺼정，共格共格母-와/子-과//話-하고/話-하구/話-허구. 1.(b),(d)(iv)参照.

文体的違いによる異なる形ということなら，書き言葉 / 話し言葉だけでなく，非尊敬 / 尊敬があってよいはずである．主格：非尊敬母-가/子-이//尊敬-께서. 1.(c)表 2 参照. 呼格：書母-여/子-이요//話非尊敬母-아/子-야///話尊敬-이시여．なお「尊敬」は「話」をも兼ねている.「甘え」という要素をここに追加し得る．共格：書母-와/子-과//話-하고/話非甘え-하구/話

-허구//話甘え母-랑/子-이랑．1.(d)(vii)参照．

さらに「無情名詞＋/有情名詞＋」,「＋言語活動動詞/＋非言語活動動詞/」という要素を加えるなら，複雑な与格をまとめ得る．与格：無情名詞＋非尊敬書-에/有情名詞＋非尊敬書-에게//有情名詞＋非尊敬話（＋非言語活動動詞）-한테///有情名詞＋非尊敬話（＋言語活動動詞）-더러////尊敬話-께．1.(c)参照．

上記の（a）は音韻論における相補分布のコピーである．朝鮮語/bab/[pap̚]＜飯＞，/babi/[pabi]＜飯が＞．音素/b/：音節の頭（語頭）[p]（この位置に[b]と[p]が現われることはない）/（語中）[b] この位置に[p]と[p̚]が現われることはない）/音節末[p̚]（この位置に[p]と[b]が現われることはない）．

上記の（b）の音韻論における対応物は例えばロシア語：**ответственный** / **otvetstvennyj** /atvʲéctvʲennij/＜責任ある＞に見出せるであろう．/ts/＞/c/.

上記の（c）については例えば **Trubetzkoy, Grunzüge der Phonologie** は文体音韻論を独立させているが，標準語と会話語の違いなどは音素の各論で扱われている．問題はこの文体的違いを異形態（ヴァリアント）の違いとして記述した場合，これが形態論だけでなく，語彙論でも限りなく広がりを見せてしまうことである．

例えば現代日本語では非尊敬形「書く」－尊敬形「お書きに - なる」に対応して「いる」－「いらっしゃる[1]」,「行く」－「いらっしゃる[2]」,「来る」－「いらっしゃる[3]」があり，この3対の動詞の非尊敬形と尊敬形は異なる形態素であるが（ここで形態素よりも大きい語彙素という概念がこの場合必要になる),「いらっしゃる[1]」,「いらっしゃる[2]」,「いらっしゃる[3]」が通時的に同一形態素だったにせよ，現代語ではそれらは分割されざるを得ない．また名詞における非尊敬形と尊敬形のペアは同一名詞の異形態となろう．例：手紙－お手紙，水―お水，返事―ご返事，等．この際「顔－お顔」に「ご尊顔」が入るかが問題となる．また普通語と卑語のペアも同一名詞の異形態をなすであろう．例：ご飯―飯（めし），顔―つら，等．

ロシア語では名詞と形容詞の指小形（愛称），指大形（卑称）などがこの範疇に入る．例：＜本＞**книга** / **kniga** -指小形（愛称）**книжка** / **knizhka** -指大形（卑称）**книжонка** /**knizhonka**．＜低い＞**низкий** / **nizkij** -指小形（愛称）**низенький** / **nizen'kij** -指小形（愛称）**низёхонький** / **nizëxon'kij**.

朝鮮語では次のものを指摘できよう．非尊敬집＜家＞―尊敬댁＜お宅＞，나이＜歳＞－연세＜お歳＞，먹다＜食べる＞잡수시다＜召し上がる＞等．書き言葉숟가락―話し言葉숟갈＜さじ＞，이야기－얘기＜話＞，되었다－됐다＜よろしい＞等．普通語이―卑語이빨＜歯＞，입다＜着る＞－걸치다＜引っ掛ける＞等．이―이빨＜歯＞は書き言葉―話し言葉の違いかも知れない．

これらを異形態として認めていくと，膨大な量の形態素，文法素，語彙

素ができてしまう．この結果として次の格の形ができることになる．与格：（＋非添加動詞）無-에/有-한테//（＋添加動詞）無-에다가/無-에다，有書-에게다가/有書-에게다,有話-한테다가/有話-한테다；具格：(＋非材料動詞)子-으로/母ㄹ-로//（＋材料動詞）子-로다가/母ㄹ-로다//子-으로다가/子-으로다//話母ㄹ-루다가/話母ㄹ-루다//話子-으루다가/話子-으루다．1.(d)(v)参照．

このような方法で多くの形を統合すると，さらに膨大な奪格の体系ができる．1(d)(vi)表6参照．

(c) の文体的違いによる異なる形（ヴァリアント）どうしの関係は，明らかに (a) のような完全な相補分布をなすヴァリアントどうしの義務的なものとは異なり，任意的である．書き言葉と話し言葉との関係について言えば，例えば話し言葉が用いられるべき場面に書き言葉を用いてある種の緊張感を表したり，その逆もある．尊敬と非尊敬の場合もしかりである．無情/有情の対立のうち，擬人法の場合は無情名詞の有情化を行うであろう．このような任意性のために文体的な違いに基づいた範疇化には恐らく反対の声も強いであろう．

さらに上に見たような奪格の設定は，いかなる交替の可能性もない-에서/話–서[1]（すなわち処格.... で）及びさまざまな形との交替の可能性を持つ-에서/ 話–서[2]（すなわち奪格.... から）の分裂をもたらす．すなわち意味的差異に根拠を置く同音異義語を認めることになる．

さらに次のような問題が起きる．(c) の文体的違いによる異なる形（ヴァリアント）どうしは，(a) のような完全な相補分布をなすヴァリアントどうしの内容が完全に等価であるのとは異なり，等価の意味を持たず，せいぜい大まかな点での意味上の一致があるだけである．

格について言えばこれらのヴァリアントのうち比較的それでも (a) に近いのは書き言葉/話し言葉，非尊敬/尊敬，無情/有情であり，＋非添加動詞/＋添加動詞，＋非材料動詞/＋材料動詞，非甘え/甘えでは常に前項が後項より広い．例えば与格の各種の形における意味の分布は次のとおりである（菅野裕臣他著，『コスモス朝和辞典』，東京：白水社，1988による）．

-에の意味	置き換え可能な格
①場所の名詞＋．＋存在を表す一部の用言．場所．	-에게,-에서
②場所の名詞＋．＋移動動詞の動詞．方向．	-에게,話-를,-로
③＋添加の他動詞．動作の及ぶ対象．	-에게,-에다가
④動作・状態の対象．	-에게
⑤＋動詞の受身形あるいは受身的な動詞．動作の主体．	-에게
⑥数詞＋．基準の単位．	-에게
⑦価格・量の名数詞＋．＋売買の動詞．価格．	
⑧＋一部の動詞．動作の依拠するところ．	-에다가

⑨時間.
⑩原因.
⑪環境.
⑫担当部署.
⑬並列.　　-에다가

⑫は置き換え可能な形は他に無-에를/無話-엘/有書-에게를//有話-한테를/有話-한텔；無-에로/有書-에게로/有話-한테로がある．(1)(d)(viii)表 9 参照.

以上のうち⑬は格助詞ではなく並立助詞としての意味である（後に述べる）.

-에게は以上の意味のほかに次の意味を持つ．⑭授受の相手．話-를，⑮＋言語活動動詞．言語活動の相手．話-더러

-한테は-에게と同じ意味を持つ．また-께もその意味領域は-한테とほぼ同じと考えてよい.

無-에다가は有書-에게다가/有話-한테다가というヴァリアントを持つ.

与格無-에//有書-에게/有話-한테は両者共通，前者のみ，後者のみの意味を持ち，もっとも多様だとするならば，奪格は形の多様性にも拘わらず意味はほぼ等価的である．具格は与格の一部とともに意味の分布と置き換え可能性の点で中間的な様相を持つ.

次に具格母ㄹ-로/話母ㄹ-루，子-으로/話子-으루の意味を見る（菅野裕臣他著，『コスモス朝和辞典』，東京：白水社，1988 による）.

①道具・手段　　一部は書-로써，話-로다가と置き換え可能
②材料　　一部は話-로다가と置き換え可能
③方向　　一部は-에，話-를と置き換え可能
④変化
⑤平面上の移動
⑥資格　　書-로서と置き換え可能
⑦時間
⑧様態
⑨原因

結局与格のタイプを統一的な格として認め得るかということ，すなわちヴァリアントの各々の意味が完全には一致しないことが最大の問題である.

5．格助詞と境界を接するものとして並立助詞と副助詞がある.

格助詞は格という関係の文法範疇と直接結びつくために，例えば名詞と動詞の間の文の成分を決定する基本的なものとなる．これに対して並立助詞と副助詞は格助詞の外縁的なものとして働く.

単語結合（これについてはいつか稿を改める）の点で言えば，格助詞と

並立助詞は次のような役割分担を行う.

1）主語 - 述語的結合：　名詞主格＋述語詞

2）等位的結合：　名詞＋並立助詞＋名詞

3）従位的結合（修飾語 - 非修飾語的結合）

a) 規定語的結合：　名詞属格＋名詞，形容詞連体形＋名詞，連体詞＋名詞

b) 対象語的結合：　名詞＋格助詞＋用言

c) 状況語的結合：　名詞＋格助詞＋用言，副詞＋用言

副助詞は３**c)**で主として格助詞あるいは副詞に接尾される. なお副助詞はこのほかにも用法を持つ.

以下に格助詞と並立助詞，副助詞と形がダブるもの，すなわちそれらと同音異義語を成すものについて述べる.

格助詞と並立助詞との同音異議語　以下の２つの語彙素がある.

1) 書母-와/子-과//話-하고/話非甘え-하구/話-허구//話甘え母-랑/子-이랑.

2)-에//無-에다가/無-에다//有書-에게다가/有書-에게다//有話-한테다가/有話-한테다.

並立助詞は次の用法がある. **1)**も **2)**も双方の用法を持つ.

(1) 名詞＋並立助詞＋名詞（＋格助詞）

(2) 名詞＋並立助詞＋名詞＋並立助詞

また **1)** は時折「格助詞＋並立助詞」という結合を持ち得る.

格助詞と副助詞との同音異議語

1)-까지　包含. 추운데다가 비까지 맞았다. 寒いのにさらに雨にまで降られた.（この場合비까지は動詞맞다の補語）

2)-부터　順序. 너부터 해! お前からやれ！（この場合너부터は動詞하다の主語）

普通副助詞は格助詞に接尾するが，たまに格助詞の前に来るものがある（特に-만）. -에까지，-에게까지，-한테까지，-로까지；-부터가.

例えば次の文では下線部が純粋に格関係を示すのか，副助詞として用いられているのかが曖昧である.

부산<u>까지</u> 갔는데 결국 못 만났다. 釜山<u>まで</u>行ったのに結局会えなかった.

6. 現代朝鮮語の**格の全体像**を図示すればおよそ次ページのようになる. とりあえずの暫定的なものである. 格を次のように**分類**する.

(1) 基本的な格　語幹格，主格，対格，属格　副助詞は語幹格にしか接尾しない.

(2) 副詞的格　与格，処格，奪格，到達格，具格，共格　*の付いたものには属格-의が接尾して連体形を作る. これには様態格，比較格が接尾

し得る.

(3) 間投詞的格　呼格

4) 接続詞的格　様態格, 比較格　本来格的関係を表すものではないが, 朝鮮語ではこれらは格としか言いようがない. 副詞的格助詞に接尾し得る.

<table>
<tr><th colspan="2">格</th><th>書き言葉</th><th>話し言葉</th><th>尊　敬</th></tr>
<tr><td colspan="2">語幹格</td><td colspan="3">-Ø</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">主　格</td><td colspan="2">母-가/子-이</td><td rowspan="2">-께서</td></tr>
<tr><td>母-란/子-이란
母-야말로/子-이야말로</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">対　格</td><td colspan="2">母-를/子-을</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>母-ㄹ</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">属　格</td><td colspan="3">-의</td></tr>
<tr><td rowspan="4">与格</td><td rowspan="2">無情物</td><td colspan="2">-에*</td><td></td></tr>
<tr><td>-에를/-엘,–에로*</td><td>-에다가/-에다</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">有情物</td><td>-에게*
–에게를, -애개로*</td><td>-한테
–한테를/-한테로</td><td rowspan="2">-께</td></tr>
<tr><td>-에게다가/-에게다</td><td>-한테다가/-한테다
-더러</td></tr>
<tr><td colspan="2">処　格</td><td colspan="2">-에서*</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">奪格</td><td>場所</td><td rowspan="3">母ㄹ-로
부터/子
-으로부
터*</td><td>-에서부터/-서부터/-서</td><td></td></tr>
<tr><td>有情物</td><td>-에게서*
/-에게서부터*</td><td>-한터서/-한테서부터</td><td></td></tr>
<tr><td>時間</td><td colspan="2">-부터*</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">到達格</td><td colspan="2">-까지*</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">具　格</td><td colspan="2">母ㄹ-로　/子-으로*</td><td></td></tr>
<tr><td>母ㄹ-로서/-으로서
母ㄹ-로써/-으로써</td><td>母-로다가/-으로다가</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>母ㄹ-로다/-으로다</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">共　格</td><td colspan="2">母-와/子-과*</td><td rowspan="2">-하고*</td></tr>
<tr><td></td><td>母-랑/子-이랑</td></tr>
<tr><td colspan="2">呼　格</td><td colspan="2">母-여/子-이여</td><td>母-아/子-야　-이시여</td></tr>
<tr><td colspan="2">様態格</td><td colspan="3">-처럼</td></tr>
<tr><td colspan="2">比較格</td><td colspan="3">-보다</td></tr>
</table>

*　さらに–의の接尾した連体形があり得る.

副詞的格には次の分析的な形が接尾し得る．(i) 主格＋아니라＜... ではなくて＞, (ii) 対格＋막론하고/불문하고＜... を問わず＞, (iii) 共格＋같이＜... のように＞.

格助詞の接尾しないいわゆる裸の格はゼロ格あるいは語幹格の名称を与えた方がよい．なぜならばそれはかならずしも格助詞の省略されたものとも言えず，省略か省略でないかをアプリオリに決めるなんらの言われもないからである．主格及び対格に副助詞が接尾すると，主格と対格の指標は消えるが，こういう形は語幹格＋副助詞と名づけた方がよい．

主格と主語，対格と目的語（補語）とは厳密に区別するべきである．前者は格の名称であり，後者は文の成分の名称である．さらに主格や対格は格の意味を持った形なのであり，しばしばなされるように，例えば“한국말만 공부했다.”＜朝鮮語だけを勉強した．＞の下線部を「目的格の意味を持った名詞＋副助詞」のように言うのは不正確で，「補語の役割を持つ名詞のゼロ格＋副助詞（対格相当の機能をする）」と言った方がよい．

ついでながら用語について一言．例えば「助詞-더러＜... に＞は有情名詞と言語活動動詞につく.」は不十分で，「有情名詞に接尾する助詞-더러＜... に＞はその後ろに言語活動動詞が後続する（あるいは言語活動動詞を従える).」とでも言った方がよい．助詞は単語とはいえ，付属語なのであって独立性が弱いから，名詞に「接尾する」のである．その後ろに言語活動動詞が来るのであって，有情名詞，助詞-더러，言語活動動詞の位置関係を明らかにしなければならない．「有情名詞＋」,「＋言語活動動詞」という記号ならよい．「(有情名詞＋助詞-더러）＋言語活動動詞」という単位を「有情名詞＋助詞-더러と言語活動動詞の結合（結びつき)」という表現はそれを単語結合の例と把握したことを示す．単語結合自体はあくまでも 2 要素の結合を問題にしているのであって，その要素の語順までは問題にしていないのである．

7. 格助詞は名詞以外に次のものに接尾し得る．

(1)一部の副詞＋属格助詞　아까의　さっきの，모처럼의　せっかくの

(2)体言の副詞的格＋指定詞　강당에서였다．講堂でだった．

(3)一部の用言接続形＋主格助詞＋아니라 걸어서가 아니라　歩いてではなく

(4) Ⅰ-고　Ⅰ-고＋格助詞　좋고 나쁘고가 よい悪いが

(5)用言疑問形Ⅱ-냐/Ⅰ-느냐（下称）Ⅱ-ㄴ가/Ⅰ-는가（等称）＋格助詞
　　거느냐가　行くかが

(6)用言体言形Ⅱ-ㅁ＋格助詞　용서하심을　お赦しくださることを，
　　Ⅱ-ㅁ으로써(소홀히 함으로써　ないがしろにすることによって)，
　　Ⅱ-ㅁ에 따라（높아짐에 따라　高くなるにつれて)，　Ⅱ-ㅁ이 없이

(굴함이 없이　屈することなく).

(7)用言体言形Ⅰ-기＋格助詞　오시기를　いらっしゃることを

(8) 用言体言形Ⅰ-지＋主格助詞，対格助詞　좋지가 않습니다　よくありません

(9)分離動詞において名詞的要素＋主格助詞，対格助詞　발전이 되었다　発展した

現代朝鮮語の格助詞の意味をヴァリアントのそれの違いに至るまで細かく研究し，格助詞を中心とする朝鮮語の単語結合辞典の作成を最終目標とするほど研究の深化を期待したい.